

2024年度成人科テキスト

月刊 「ぶどうの木」

9月号



良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて悟る人であり、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結ぶのである。(マタイ13:23)

名前



# 目次

証し「共に学ぶ喜び」	岩崎 秀子	・・・ 2
解説・創世記③		・・・ 3
第22課「売られたヨセフ」		・・・ 5
ショートメッセージ：田中由記子姉	聖書日課：工藤征治兄	
第23課「さらなる悲劇の中に」		・・・ 9
ショートメッセージ：郷健人兄	聖書日課：渡部和子姉	
第24課「生かされるヨセフ」		・・・ 13
ショートメッセージ：栗山義重兄	聖書日課：小澤敬一兄	
第25課「打ち明けるヨセフ」		・・・ 19
ショートメッセージ：宇佐美典子姉	聖書日課：宇佐美典子姉	
第26課「託されるヨセフ」		・・・ 23
ショートメッセージ：郷秀男兄	聖書日課：渡部和子姉	

表紙イラスト：友納聖子姉

## お知らせ

- 成人科は毎週日曜日 10：15～50 地下フェロシップホールにて行っています。ぜひご出席ください。
- ショートメッセージの動画は、教会ホームページからも視聴できます。上部メニューから「教会学校」をクリック→「成人科」をクリック
- ショートメッセージと聖書日課を、メールで受け取ることができます。ご希望の方は成人科奉仕者（ショートメッセージ、聖書日課の執筆者）にお声がけください。
- 「ぶどうの木」のボックスへの配布をご希望される方も、奉仕者までお知らせください。

# 悲しいことがあっても

Musical score for the song "悲しいことがあっても". The score is written in treble clef, 3/4 time, and B-flat major. It consists of six staves of music with lyrics underneath. Chords are indicated above the notes.

かなしい こと が あっ て も なき た い  
ときにも - いつも いつも きみのこ  
と まもっ て く れる だ ろ う - イエ ス  
さ ま が き て イエ ス さ ま が き  
て イエ ス さ ま が き て まもっ て  
く れる だ ろ う -

<sup>かな</sup>悲しいことがあっても  
なきたい<sup>とき</sup>時にも  
いつもいつも きみのこと  
<sup>まも</sup>守ってくれるだろう  
イエスさまがきて  
イエスさまがきて  
イエスさまがきて  
<sup>まも</sup>守ってくれるだろう

## 証し「共に学ぶ喜び」

岩崎 秀子

コロナ期間を経て、少しずつ教会での活動が始まり出した当初、成人科の参加人数は5名ほどでした。各自Zoomで自宅・幼稚園園庭・教会フロア・教会2階ソファ・・・からの参加でした。細々とでしたが、それでも共に聖書の学びができることに大きな喜びを感じていました。少人数でのマスク着用での集まりができるようになり、リアルでの学びが出来た時は、続けてきてよかったという思いと、祈り続けることの大切さを与えられた時でもありました。人数が増えるとともに場所も広い所へと移動し、奉仕の内容も検討しつつ工夫することも喜びでした。

現在の成人科は、教会員ばかりでなく求道者の方も参加くださり、限られた時間ではありますが共にみ言葉をいただき分かち合いを通して、お一人おひとりに主が臨んでくださっていることを実感させていただいています。堅苦しくなく自由に参加できる雰囲気も、主が備えてくださった恵みであると思います。

今後どのように成人科が主に用いられ学びの場分かち合いの場となっていくのか、参加くださる皆さまと共に主に期待して祈って参りたいと思います。

ヘンリ・ナウエン著「今日のパン、明日の糧」より共有させていただきます。

### 『驚きを期待する』

一日一日に驚きがあります。驚きを期待しさえすれば、驚きが訪れた時、それを見、聞き、感じるでしょう。驚きが悲しみとして、あるいは喜びとしてやってきても、日々の驚きを受け入れることを恐れないようにしましょう。驚きは私たちの心の内に新しい場を開いてくれることでしょう。新しい友人を喜んで迎え入れ、互いの人間性を分かち合い、支え合うことを喜べる場を。



## 解説・創世記③ 25~50章

### 【イスラエルの12部族】

カナンの地に戻ったイスラエル(ヤコブ)は叔父ラバンの娘のラケルと姉のレア、レアの女奴隷であったジルバ、ラケルの女奴隷であったビルハの四人の配偶者がいました。この四人から12人の息子たちが生まれました。

### イスラエル(ヤコブ)

レア ①ルベン ②シメオン ③レビ ④ユダ ⑨イサカル ⑩ゼブルン

ジルバ ⑦ガド ⑧アシェル

ビルハ ⑤ダン ⑥ナフタリ

ラケル ⑪ヨセフ ⑫ベニヤミン

※○の数字は生まれた順

一族はカナンの飢饉を逃れてエジプトに移住し、イスラエルの12部族の元となりました。ヨセフの二人の息子で長男マナセ、弟エフライムはイスラエル(ヤコブ)の養子となり、祭司職を担ったレビ族を除いて、それぞれマナセ族、エフライム族として「イスラエルの12部族」の元となりました。

### 【ヨセフとユダ】

イスラエル(ヤコブ)の長子の権利は長兄ルベンであったが許されない不貞(35:22)で拒否されました。二番、三番目の権利のシメオン、レビはシケムでの蛮行(34:25~29)のゆえに除外となり、4男のユダに相続権が与えられると思われていました。しかし、イスラエル(ヤコブ)は最愛のラケルが産んだ11番目の息子ヨセフを愛していましたので、相続権はユダとヨセフが競争者となりました。

ヨセフは兄弟の妬みの結果、エジプトに奴隷として売られましたが、神の不思議な導きによりエジプトのファラオに次ぐ宰相にまでなり、飢饉に襲われたカナンのイスラエルの一族をエジプトへと移住させました。ヨセフの息子、次男エフライムにイスラエル(ヤコブ)のアブラハム、イサク、ヤコブと受け継がれた**長子の権利**は受け継がれ、やがてイスラエルの民はエジプトの地でひとつの民として形成されていったのです。つまり、ヨセフによって神の民の形成の機会が与えられたのです。

ユダは兄弟たちのリーダーとなりエジプトでヨセフの交渉役となりましたが、兄弟たちと離れていた時期にはカナン人との結婚、息子たちの罪、自身の不貞と、どれをとっても神の祝福に与るには相応しくない人でした。しかし、神はユダを見捨てることなく「王笏(王権)はユダから離れず(49:10)」とあるようにアブラハム、イサク、ヤコブと受け継がれた**神の契約**を継ぐ者とされ、ダビデを経てキリストに至る系図の中に位置づけられる者とされたのです。神の契約による救いは人間の側の功績ではなく、神の一方的な選びと恵みによるものであることを知らされるのです。

## 第22課 売られたヨセフ 37:18～36

- **裾の長い晴れ着** 色とりどりあや織りされた晴れ着は「えこひいき」のしるしであり、ヤコブが兄弟たちを差し置いてヨセフに長子の権利を継がせようとしていたことを示すものでした。
- **夢の解き明かし** 古代世界では夢や幻は重要でした。なぜなら夢や幻を通して神は未来について預言なさると思われていた。そのため夢の説き明かしも重要でヨセフにはその能力があったのです。

## 第23課 さらになる悲劇の中に 39:1～23

- **ポティファル** エジプト王宮の近衛兵の長。ヨセフは奴隷としてこの家に売られ下僕として仕え主人の信頼を得ましたが、ポティファルの妻の誘惑を拒んだために獄につながれてしまいます。
- **主が共におられる** 主が共におられることでヨセフは主を信じることができた。彼は幸運な人となった。主がヨセフを通して証しされた。主人に信頼された。主人の家が祝福された。このような幸いが苦難のなかのヨセフに訪れました。

## 第24課 生かされるヨセフ 41:37～57

- **エジプトの宰相** 外国人であるヨセフを登用できたのは、紀元前1700年ころからエジプトを支配していたヒクソス王朝(エジプト人以外の西方のセム族を含む民族集団で起こされた王朝)でしたので可能であったようです。アブラハムもカルデア人と呼ばれたセム系遊牧民(11:26)でした。
- **ツァフェナト・パネア** 異民族による王朝の故かエジプト側の文献にはこの名は出てきませんがヨセフはエジプト名を持ち、エジプト人の妻を迎えて、エジプト人のようになりましたが主に対する信仰は失いませんでした。

## 第25課 打ち明けるヨセフ 45:1～8

- **ゴシェンの地** ナイル川の下流で、スエズの東方に位置して牧畜と農耕に適した場所。エジプトに寄留したイスラエルの民は約400年をここで過ごした。
- **「ほかならぬわたしがあなたたちに言っているのです」** ユダの嘆願に平静さを保てなくなったヨセフはエジプト人を人払いしてユダと兄弟たちにヘブライ語で語りかけたのです。

## 第26課 託されるヨセフ 50:15～26

- **神の時** 神の時計は私たち人間の時計よりずっとゆっくりと時が刻まれ、神の忍耐強さは無限であることがわかります。人間の待つ時間は神の目から見れば決して無駄な時間ではなく、神はたえず働かれて状況を整え、神の民の人生や品性をも整えておられるのです。
- **神の主権** 良いことであれ、悪いことであれ、すべてのことを完全に神が支配なさることを「神の主権」といいます。ヨセフ物語は神の主権が現れたひとつの例話として創世記に記されているのです。

### 参考図書

- 「新聖書購解シリーズ 創世記」 2002年 いのちのことば社  
「聖書理解のためのガイドブック」ジョン・ストット 2010年 聖書同盟  
「バイブルガイド」マイク・ボーマント 2015年 いのちのことば社  
「新聖書ハンドブック」ヘンリー・H・ハーレイ 2023年 いのちのことば社

(文責・郷秀男)

## 第22課 売られたヨセフ

聖書箇所：創世記37章18～36節

主題聖句：兄たちはヨセフをねたんだが、父はこのことを心に留めた。(11節)

18兄たちは、はるか遠くの方にヨセフの姿を認めると、まだ近づいて来ないうちに、ヨセフを殺してしまおうとたくらみ、19相談した。

「おい、向こうから例の夢見るお方がやって来る。20さあ、今だ。あれを殺して、穴の一つに投げ込もう。後は、野獣に食われたと言えよ。あれの夢がどうなるか、見てやろう。」

21ルベンはこのことを聞いて、ヨセフを彼らの手から助け出そうとして、言った。

「命まで取るのはよそう。」

22ルベンは続けて言った。

「血を流してはならない。荒れ野のこの穴に投げ入れよう。手を下してはならない。」

ルベンは、ヨセフを彼らの手から助け出して、父のもとへ帰したかったのである。

23ヨセフがやって来ると、兄たちはヨセフが着ていた着物、裾の長い晴れ着をはぎ取り、24彼を捕らえて、穴に投げ込んだ。その穴は空で水はなかった。

25彼らはそれから、腰を下ろして食事を始めたが、ふと目を上げると、イシュマエル人の隊商がギレアドの方からやって来るのが見えた。らくだに樹脂、乳香、没薬を積んで、エジプトに下って行くところであった。26ユダは兄弟たちに言った。

「弟を殺して、その血を覆っても、何の得にもならない。27それより、あのイシュマエル人に売ろうではないか。弟に手をかけるのはよそう。あれだって、肉親の弟だから。」

兄弟たちは、これを聞き入れた。

28ところが、その間にミディアン人の商人たちが通りかかって、ヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でイシュマエル人に売ったので、彼らはヨセフをエジプトに連れて行ってしまった。29ルベンは穴のところに戻ってみると、意外にも穴の中にヨセフはいなかった。ルベンは自分の衣を引き裂き、30兄弟たちのところへ帰り、「あの子がいな。わたしは、このわたしは、どうしたらいいの」と言った。31兄弟たちはヨセフの着物を拾い上げ、雄山羊を殺してその血に着物を浸した。32彼らはそれから、裾の長い晴れ着を父のもとへ送り届け、「これを見つけましたが、あなたの息子の着物かどうか、お調べになってください」と言わせた。33父は、それを調べて言った。

「あの子の着物だ。野獣に食われたのだ。ああ、ヨセフはかみ裂かれてしまったのだ。」

34ヤコブは自分の衣を引き裂き、粗布を腰にまとい、幾日もその子のために嘆き悲しんだ。35息子や娘たちが皆やって来て、慰めようとしたが、ヤコブは慰められることを拒んだ。

「ああ、わたしもあの子のところへ、嘆きながら陰府へ下って行こう。」

父はこう言って、ヨセフのために泣いた。

36一方、メダンの人たちがエジプトへ売ったヨセフは、ファラオの宮廷の役人で、侍従長であったポティファルのものとなった。

今月は5回かけてヨセフ物語を学びます。

第1回目の今日は、ヨセフが17歳の頃のことで、兄たちに恨まれたヨセフがエジプトに売られるところです。

ヤコブには12人の息子がいました。レアとラケル、それぞれの女奴隷の計4人から生まれた息子たちです。ヨセフはラケルの子で、11番目に生まれました。最愛のラケルの子で、歳をとってから生まれた子どもだからでしょうか、ヤコブはヨセフを溺愛していました。また、ヨセフがヤコブに兄たちについて告げ口をすることもあり、兄弟仲はかなり悪かったようです。

その上、ヨセフは兄たちに自分の見た夢の話をします。畑仕事をしていると、兄たちの束が自分の束にひれ伏した夢だと言います。兄たちの感情を逆なでするような言動です。

別の日には、太陽と月と十一の星が自分にひれ伏す夢を見たと言いました。兄たちだけでなく、父と母もヨセフにひれ伏すというのです。父ヤコブはヨセフを叱りましたが、このことを心に留めたと書かれています。

ある時、ヤコブに頼まれて、羊の世話をしている兄たちの様子を見に来たヨセフを見て、兄たちは殺してしまおうと相談します。しかし、長男のルベンが殺すことは思いとどまらせ、穴に投げ込むだけにします。その後、四男のユダがイシュマエル人に売ることを提案しますが、ヨセフはすでに売られた後でした。ヨセフが野獣にかみ殺されたと思ったヤコブは嘆き悲しみ、息子や娘たちの慰めを拒み、泣き続けました。



今日の聖書箇所には、「神はこう言われた」や「神が〇〇された」など、「神」という言葉は出てきません。そのため、この箇所をただの人間の物語として読むと、「えこひいきは良くない」「こんな風に夢の話をしたら、お兄さんたちが怒るのは当たり前。配慮が足りない」あるいは「どんなことがあっても殺したり、売ったりするのは良くない」などの感想や意見が出てくるのではないのでしょうか？

しかし、私たち人間の歩みには必ず神さまの力が働いています。罪深い人間の妬みが引き起こした悲劇の背後に神さまのご計画と守りがあることを覚えながら読んでまいりましょう。

夢というのは不思議なものです。現代の私たちは、夢は主に深層心理が表れたものと考えます。つまり、心配していることや願っていることが夢に出てくるということです。しかし、神さまが夢の中で語りかけてくださることは少なくありません。ヨセフの見た夢も、ヨセフの願望ではなく、神さまからのメッセージだったのだと思います。

神さまの言葉を伝えた人が信じてもらえないどころか、「なんということをするのか」と恨まれ、ひどい仕打ちを受けるということが人間の歴史の中で幾度となく繰り返されてきました。私たちは、自分の知識や経験で理解できないことは受け入れがたく、また、望んでいないことは拒否してしまうものです。

また、神さまのご計画の中では、皆に神さまの言葉が伝えられて、皆が活躍する出来事よりも、一人の人にだけ伝えられて、その一人の人によって皆が救われるという出来事の方が多くあります。そして、選ばれる一人の人が、皆から立派な人だと思われる人物、誰もが認めるリーダーシップを持った人物でないことが多々あります。そのため、私たち人間は、その人を通して語られる神さまの言葉を信じることができず、その人を排除するという罪を幾度となく犯してきたのです。その最たるものがイエスさまの十字架ではないのでしょうか？

夢の話聞いたヤコブはヨセフを叱ったものの、そのことを心に留めています。神さまの言葉であることに気づいたのだと思います。神さまへの信仰心を持ちつつ、現実的な社会を乗り切る手腕を持ったヤコブらしい対応ではないでしょうか。それに対し、ヨセフの兄たちは、ヨセフの夢が神さまの言葉であることに気づかず、感情に任せてヨセフを排除しようとしてしました。しかし、ヨセフを通して神さまの救いが実現されることは神さまのご計画であったので、ヨセフが殺されることはありませんでした。長男のルベンが殺すのはやめようと必死に皆を止めたり、投げ込まれた穴に水がなかったりしたところに神さまの守りを見ることができます。

私たちも神さまのご計画と守りの中で生かされています。しかし、そのことに気づかない、気づこうとしないことがよくあります。ヨセフを失ったヤコブが嘆き悲しんだように、神さまを悲しませることのないように、神さまのみ言葉を聞き分けることのできる知恵、心の素直さ、神さまを信じる心をもって、歩んでまいりましょう。

～分かち合い～

- 妬みや保身から、神さまのご計画や言葉に気づくことができなかった経験はありますか？
- 私たちの周りのどのようなところに、神さまのことばが隠れていると思いますか

## 今週の聖書日課

### 9月2日(月) マタイによる福音書26章14～16節

14そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、  
15「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。16そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

古代/中世の奴隷と近代のアフリカ黒人奴隷とは、人身売買は同じですが、内容はかなり違うようです。古代/中世では戦争に負けた国の王族/国民が奴隷になったようです。ユダヤ人でペルシャ王妃エステルや、王に次ぐ地位になったモルデカイは捕囚の子孫です。又、奴隷としてエジプトへ売られたヨセフはエジプト王に次ぐ地位になりました。

### 9月3日(火) マタイによる福音書27章3～4節

3そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、4「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。

裏切りのイスカリオテのユダは弟子の1人として、グループの財務をしていました。(デナリウス)銀貨30枚は現代価値だと30万円位です。これ欲しさで師-イエス様を売ったのでしょうか。聖書にはこれに関する記述はありません。ヨセフを売った兄たちは、カナンのに地に飢饉が起らなかったら、エジプトへは行かなかったでしょう。それぞれ不思議さを感じます。

### 9月4日(水) 詩編105編16～24節

16主はこの地に飢饉を呼び  
パンの備えをことごとく絶やさされたが  
17あらかじめひとりの人を遣わしておかれた。  
奴隷として売られたヨセフ。  
18主は、人々が彼を卑しめて足枷をはめ  
首に鉄の枷をはめることを許された  
19主の仰せが彼を火で練り清め  
御言葉が実現するときまで。  
20王は人を遣わして彼を解き放った。  
諸国を支配する王が彼を自由の身にし  
21彼を王宮の頭に取り立て  
財産をすべて管理させた。  
22彼は大臣たちを思いのままに戒め  
長老たちに知恵を授けた。  
23イスラエルはエジプトに下り  
ヤコブはハムの地に宿った。  
24主は御自分の民を大いに増やし  
敵よりも強くされた。

ヨセフは、彼を買い取ったエジプトの宮廷役人の妻から[私の床に入りなさい]と誘惑され、逃げ出したが、その妻の策略で監獄に入れられたり、多くの苦勞をしたのに、正しい道を歩んだのは、子どもの頃から教えられたユダヤ教を信じていたからでしょう。

## 9月5日(木) 使徒言行録7章9～10節

9この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、10あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵みと知恵をお授けになりました。そしてファラオは、彼をエジプトと王の家全体とをつかさどる大臣に任命したのです。

ユダヤ教からキリスト教-カトリックとプロテスタントが生まれ、そしてイスラム教が生まれました。目に見えない神を信じる一神教の世界への変遷を感じます。

## 9月6日(金) 詩編10編12～14節

12立ち上がってください、主よ。  
神よ、御手を上げてください。  
貧しい人を忘れないでください。  
13なぜ、逆らう者は神を侮り  
罰などはない、と心に思うのでしょうか。  
14あなたは必ず御覧になって  
御手に労苦と悩みをゆだねる人を  
顧みてくださいます。  
不運な人はあなたにすべてをおまかせします。  
あなたはみなしごをお助けになります。

貧しい人や弱者を助ける現代の社会福祉制度は欧米から取り入れた制度です。社会的弱者を救済する考え方はキリスト教から来ているのですね。

## 9月7日(土) 箴言 7章1～5節

1わが子よ、わたしの言うことを守り  
戒めを心に納めよ。  
2戒めを守って、命を得よ。  
わたしの教えを瞳のように守れ。  
3それをあなたの指に結び、心の中の板に書き記せ。  
4知恵に「あなたはわたしの姉妹」と言い  
分別に「わたしの友」と呼びかけよ。  
5それはあなたをよその女から  
滑らかに話す異邦の女から守ってくれる。

法律や倫理観を子供の時から教育で教える事によっても、世の悪から人生を守る事が出来ません。しかしそれ以上に、「わたしの言うこと」つまり神の御言葉に聞き従うことで、罪の誘惑を遠ざけ、正しい者としての命を得ることが出来ます。

## 第23課 さらなる悲劇の中に

聖書箇所：創世記39章1～23節

主題聖句：わたしは、どうしてそのように大きな悪を働いて、  
神に罪を犯すことができますよう。(9節)

1 ヨセフはエジプトに連れて来られた。ヨセフをエジプトへ連れて来たイシュマエル人の手から彼を買い取ったのは、ファラオの宮廷の役人で、侍従長のエジプト人ポティファルであった。  
2 主がヨセフと共におられたので、彼はうまく事を運んだ。彼はエジプト人の主人の家にいた。  
3 主が共におられ、主が彼のすることをすべてうまく計られるのを見た主人は、4 ヨセフに目をかけて身近に仕えさせ、家の管理をゆだね、財産をすべて彼の手に任せた。5 主人が家の管理やすべての財産をヨセフに任せてから、主はヨセフのゆえにそのエジプト人の家を祝福された。主の祝福は、家の中にも農地にも、すべての財産に及んだ。6 主人は全財産をヨセフの手にゆだねてしまい、自分が食べるもの以外は全く気を遣わなかった。ヨセフは顔も美しく、体つきも優れていた。  
7 これらのことの後で、主人の妻はヨセフに目を注ぎながら言った。「わたしの床に入りなさい。」  
8 しかし、ヨセフは拒んで、主人の妻に言った。「ご存じのように、御主人はわたしを側に置き、家の中のことには一切気をお遣いになりません。財産もすべてわたしの手にゆだねていただきました。9 この家では、わたしの上に立つ者はいませんから、わたしの意のままにならないものもありません。ただ、あなたは別です。あなたは御主人の妻ですから。わたしは、どうしてそのように大きな悪を働いて、神に罪を犯すことができますよう。」  
10 彼女は毎日ヨセフに言い寄ったが、ヨセフは耳を貸さず、彼女の傍らに寝ることも、共にいることもしなかった。

今週の週題は「さらなる悲劇の中に」となっていますが、これは「さらなる悲劇の中に落とされた可哀想なヨセフ」ではなく、「さらなる悲劇の中にも共におられた神さま」を表現した題ではないかと思えます。

今週の箇所である創世記39章においては、神さまがヨセフを守り続けたことが繰り返し強調されています。

2節：主がヨセフと共におられたので・・・

3節：主が共におられ、主が彼のすることをすべてうまく計られるのを見た主人は・・・

5節：主はヨセフのゆえにそのエジプト人の家を祝福された。

21節：しかし、主がヨセフと共におられ、恵みを施し、監守長の目にかなうように導かれた・・・

23節：主がヨセフと共におられ、ヨセフがすることを主がうまく計られたからである。

ヨセフ物語の全体を読み通しても、ここまで直接的に神さまのお働きを強調しているのは39章だけです。たとえば先週の22課で学んだように、ヨセフが売り渡される37章には「神」や「主」といった言葉は出てきません。それにより、兄たちの愚行を促しはしないまでも、止めもされない神さまの姿が浮かび上がってきます。

最近の出来事なのですが、私の大学時代の先輩で、知的好奇心からなのか、たまに私の信仰を試すような質問を投げってくる人がいます。先日お会いした際も、日に日に巨大化する私の体型を目にして「学生時代も聞いた気がするけど、そうやって好き勝手に飲み食いする君を神は良しとおられるのかね」と、大変耳の痛い質問をしてこられました。どう答えたものか刹那の迷いを経て、私は苦し紛れにこう言いました。「まあ最近思うのは、時に神は沈黙されますからね…」笑う先輩。そこに付け足して「ただ沈黙と是認は違いますね…」とも答えた私。先輩が少し考えるような顔をされ、この会話は終わりました。

あくまで先輩後輩の冗談半分の会話でしたが、私としては最近の成人科で創世記を学んでいる影響が出た答え方だな、と自分で感じました。神さまは、人の目には正しくない行いであっても、それを即座に止められるとは限りません。ヤコブが兄エサウや父イサクを騙す時も神は沈黙されていましたし、ヨセフが売り渡されるところも黙って見ておられました。しかし黙っておられるからと言って、それらを神さまが許し、良しとされていると決めつけるのも大きな間違いです。実際、神さまが人間の過ちに対して戒めを与えるお姿も聖書には多々書かれています。

きっと神さまは、親が子を育てる時にそうするように、あえて黙って見守る、あえてしたいようにさせる、という関わり方もしてくださるお方なのです。私たちがただの操り人形とせず、自由な意思をお与えくださった神さまだからこそ、時に沈黙を選ばれるのです。穏やかにニコニコと見ている沈黙、両腕を組んで厳しい目を向けられている沈黙、本当は手や口を出したいけれどグッとこらえる沈黙、嘆き悲しみに静かに寄り添う沈黙など、沈黙にも様々あると思いますが、全ては神さまの愛に根差すものです。そして、この39章で強調されているように、必要となればあらゆる形で具体的な助けを与えて下さるのも、神さまなのです。愛に溢れた、神の二面性と言えるかもしれません。

そうした神さまからの愛を忘れずに生きるために大切なことは、「自分自身も神さまに目を向け続ける」ことではないでしょうか。ヨセフがポティファルの妻からの誘惑に毅然とした態度を取ることができたのは、聖書教育誌にあるように「(妻からの) 問いを神の前に置きなおし、(中略) 神の前に生きるという選択」をすることができたからです。誘惑に負けそうな時、神との間に壁を立てて、一時的に神の眼差しから逃れようとする自分がいます。実際のところ神の前には全く無意味な壁なのですが、自分自身が神を見ることから逃れられてしまいます。ヨセフは、そのような生き方を選ばなかったのです。

異国の地においてヨセフがどのように信仰を保ち、育み、神に目を向ける生き方をし続けたのか、具体的な方法まで聖書は語っていません。しかしこれらを実現する上で相当に厳しい環境であったことは想像できます。一方の私たちには、聖書があり、教会があり、毎週の礼拝があり、学びの場があり、信仰を同じくする神の家族があり・・・と、ヨセフが羨んだかもしれないほどに、神さまを近く感じる環境が与えられています。それでも様々な誘惑を前に、神との間に壁を作ってしまうかねない私たちですが、主の前に跪く時、神自らがその壁を打ち壊してくださいませ。そして、私はこんなにあなたを愛しているよ、いつも見守っているよ、と教えてくださいませ。礼拝や、日々の祈り、御言葉を読む習慣が深い意味を持つのも、「作ってしまった壁を壊していただける」ことが大きな理由の一つではないでしょうか。

壊してもらえるからどんだけ作ってもいいや！と開き直ってはまずいでしょうが、過ちを正していただける安心感と、それに感謝する思いを大切にしながら、ヨセフのように神を見上げ続けていきたいと思います。

～分かち合い～

- 神さまの沈黙をもどかしく感じたことはありますか。
- 神さまに「壁」を壊していただいた経験について、分かち合いましょう。

## 今週の聖書日課

### 9月9日(月) 創世記40章1～8節

1これらのこのの後で、エジプト王の給仕役と料理役が主君であるエジプト王に過ちを犯した。2ファラオは怒って、この二人の宮廷の役人、給仕役の長と料理役の長を、3侍従長の家にある牢獄、つまりヨセフがつながれている監獄に引き渡した。4侍従長は彼らをヨセフに預け、身辺の世話をさせた。牢獄の中で幾日かが過ぎたが、5監獄につながれていたエジプト王の給仕役と料理役は、二人とも同じ夜にそれぞれ夢を見た。その夢には、それぞれ意味が隠されていた。6朝になって、ヨセフが二人のところへ行ってみると、二人ともふさぎ込んでいた。7ヨセフは主人の家の牢獄に自分と一緒に入れられているファラオの宮廷の役人に尋ねた。「今日は、どうしてそんなに憂うつな顔をしているのですか。」8「我々は夢を見たのだが、それを解き明かしてくれる人がいない」と二人は答えた。ヨセフは、「解き明かしは神がなさることではありませんか。どうかわたしに話してみてください」と言った。

濡れ衣を着せられて監獄に收容されたヨセフですが、主がヨセフと共におられ恵みを施されたので、囚人は皆ヨセフの手に委ねられました。囚人に「解き明かしは・・・どうぞ私に・・・。」と言った一瞬傲慢にも聞こえる言葉ですが、この様な状況でも神さまに揺るぐことなく全き信頼を寄せるヨセフの姿が浮彫になります。

### 9月10日(火) 使徒言行録8章26～40節

26さて、主の天使はフィリポに、「ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け」と言った。そこは寂しい道である。27フィリポはすぐ出かけて行った。折から、エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産の管理をしていたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に来て、28帰る途中であった。彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。29すると、「霊」がフィリポに、「追いかけて、あの馬車と一緒にいけ」と言った。30フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、「読んでいることがお分かりになりますか」と言った。31宦官は、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。32彼が朗読していた聖書の箇所はこれである。「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。33卑しめられて、その裁きも行われなかった。だれが、その子孫について語るだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」34宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」35そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。36道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるのでしょうか。」37+38そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。39彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びにあふれて旅を続けた。40フィリポはアゾトに姿を現した。そして、すべての町を巡りながら福音を告げ知らせ、カイサリアまで行った。

エチオピアの宦官に付き添わせるため、主の天使はフィリポにガザに下る道に行くように言いました。直ぐに行動をおこしたフィリポは、宦官にイザヤ書から説きおこし福音を語りバプテスマを授ける恵みに預かりました。私たちも日常生活の中で、語りかけて下さっている主のみ声を聴いて行うことが出来ますように助けて下さい。

### 9月11日(水) ヤコブの手紙1章5～6節前半

5あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、だれにでも惜しみなくとがめだてしないでお与えになる神に願いなさい。そうすれば、与えられます。6いささかも疑わず、信仰をもって願いなさい。疑う者は、風に吹かれて揺れ動く海の波に似ています。

私はこの言葉に励まされて今まで過ごしてきたように思います。人にこのようなお話しをするとは何と哀れなと思われるかもしれませんが、神さまの前には恥ずかしいと思うこと無くお願いすることが出来ます。万能の主は愛して求める以上の最善を下さることを感謝いたします。

## 9月12日(木) 創世記4 | 章9 ~ | 3節

9そのとき、例の給仕役の長がファラオに申し出た。

「わたしは、今日になって自分の過ちを思い出しました。10かつてファラオが僕どもについて憤られて、侍従長の家にある牢獄にわたしと料理役の長を入れられたとき、11同じ夜に、わたしたちはそれぞれ夢を見たのですが、そのどちらにも意味が隠されていました。12そこには、侍従長に仕えていたヘブライ人の若者がおりまして、彼に話をしたところ、わたしたちの夢を解き明かし、それぞれ、その夢に応じて解き明かしたのです。13そしてまさしく、解き明かしたとおりになって、わたしは元の職務に復帰することを許され、彼は木にかけられました。」

給仕長は監獄での「あなたが自由の身になったら私の身の上をファラオに話して、自由になれるように取り計らってください。」と言われたヨセフとの約束を忘れていました。私たちも苦しい時に主をお願いをしておいて、喉元を過ぎたら感謝のお祈りも忘れてしまうことはありませんでしょうか。

## 9月13日(金) 創世記4 | 章 | 6節

16ヨセフはファラオに答えた。

「わたしではありません。神がファラオの幸いについて告げられるのです。」

あくまでも神さまが告げられるのですと、賜物の全ては主からのものと告白するヨセフ。益々主に愛されそうですね。

## 9月14日(土) 創世記4 | 章 | 7 ~ 36節

17ファラオはヨセフに話した。

「夢の中で、わたしがナイル川の岸に立っていると、18突然、よく肥えて、つややかな七頭の雌牛が川から上がって来て、葦辺で草を食べ始めた。19すると、その後から、今度は貧弱で、とても醜い、やせた七頭の雌牛が上がって来た。あれほどひどいのは、エジプトでは見たことがない。20そして、そのやせた、醜い雌牛が、初めのよく肥えた七頭の雌牛を食い尽くしてしまった。21ところが、確かに腹の中に入れてのに、腹の中に入れておさまるで分らないほど、最初と同じように醜いままなのだ。わたしは、そこで目が覚めた。22それからまた、夢の中でわたしは見たのだが、今度は、とてもよく実の入った七つの穂が一本の茎から出てきた。23すると、その後から、やせ細り、実が入っておらず、東風で干からびた七つの穂が生えてきた。24そして、実の入っていないその穂が、よく実った七つの穂のみ込んでしまった。わたしは魔術師たちに話したが、その意味を告げうる者は一人もいなかった。」

25ヨセフはファラオに言った。

「ファラオの夢は、どちらも同じ意味でございます。神がこれからなさろうとしていることを、ファラオにお告げになったのです。26七頭のよく育った雌牛は七年のことです。七つのよく実った穂も七年のことです。どちらの夢も同じ意味でございます。27その後から上がって来た七頭のやせた、醜い雌牛も七年のことです。また、やせて、東風で干からびた七つの穂も同じで、これらは七年の飢饉のことです。28これは、先程ファラオに申し上げましたように、神がこれからなさろうとしていることを、ファラオにお示しになったのです。29今から七年間、エジプトの国全体に大豊作が訪れます。30しかし、その後七年間、飢饉が続き、エジプトの国に豊作があったことなど、すっかり忘れられてしまうでしょう。飢饉が国を滅ぼしてしまうのです。31この国に豊作があったことは、その後続く飢饉のために全く忘れられてしまうでしょう。飢饉はそれほどひどいのです。32ファラオが夢を二度も重ねて見られたのは、神がこのことを既に決定しておられ、神が間もなく実行されようとしておられるからです。33このような次第ですから、ファラオは今すぐ、聡明で知恵のある人物をお見つけになって、エジプトの国を治めさせ、34また、国中に監督官をお立てになり、豊作の七年の間、エジプトの国の産物の五分の一を徴収なさいますように。35このようにして、これから訪れる豊年の間に食糧をできるかぎり集めさせ、町々の食糧となる穀物をファラオの管理の下に蓄え、保管させるのです。36そうすれば、その食糧がエジプトの国を襲う七年の飢饉に対する国の備蓄となり、飢饉によって国が減びることはないでしょう。」

誰も解けないファラオの夢を解くことの出来たヨセフ。神さまからの聡明なその知恵に驚いたファラオは、ヨセフを宮廷の責任者に任命します。そしてヨセフもファラオの期待に沿うべく最善を尽くして国が飢饉で滅びないように対処します。このような主の知恵に導かれたリーダーを持つ国民は幸せです。

## 第24課 生かされるヨセフ

聖書箇所：創世記41章37～57節

主題聖句：ファラオは家来たちに、『このように神の霊が宿っている人はほかにあるだろうか』と言い、ヨセフの方を向いてファラオは言った。『神がそういうことをみな示されたからには、お前ほど聡明で知恵のある者は、ほかにはいないであろう。(38-39節)』

37ファラオと家来たちは皆、ヨセフの言葉に感心した。38ファラオは家来たちに、「このように神の霊が宿っている人はほかにあるだろうか」と言い、39ヨセフの方を向いてファラオは言った。

「神がそういうことをみな示されたからには、お前ほど聡明で知恵のある者は、ほかにはいないであろう。40お前をわが宮廷の責任者とする。わが国民は皆、お前の命に従うであろう。ただ王位にあるということだけで、わたしはお前の上に立つ。」

41ファラオはヨセフに向かって、「見よ、わたしは今、お前をエジプト全国の上に立てる」と言い、42印章のついた指輪を自分の指からはずしてヨセフの指にはめ、亜麻布の衣服を着せ、金の首飾りをヨセフの首にかけた。43ヨセフを王の第二の車に乗せると、人々はヨセフの前で、「アブレク(敬礼)」と叫んだ。ファラオはこうして、ヨセフをエジプト全国の上に立て、44ヨセフに言った。「わたしはファラオである。お前の許しなしには、このエジプト全国で、だれも、手足を上げてはならない。」

45ファラオは更に、ヨセフにツァフェナト・パネアという名を与え、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナトを妻として与えた。ヨセフの威光はこうして、エジプトの国にあまねく及んだ。

46ヨセフは、エジプトの王ファラオの前に立ったとき三十歳であった。ヨセフはファラオの前をたつて、エジプト全国を巡回した。

47豊作の七年の間、大地は豊かな実りに満ち溢れた。48ヨセフはその七年の間に、エジプトの国中の食糧をできるかぎり集め、その食糧を町々に蓄えさせた。町の周囲の畑にできた食糧を、その町の中に蓄えさせたのである。49ヨセフは、海辺の砂ほども多くの穀物を蓄え、ついに量りきれなくなったので、量るのをやめた。

50飢饉の年がやって来る前に、ヨセフに二人の息子が生まれた。この子供を産んだのは、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナトである。51ヨセフは長男をマナセ(忘れさせる)と名付けて言った。

「神が、わたしの苦勞と父の家のことをすべて忘れさせてくださった。」

52また、次男をエフライム(増やす)と名付けて言った。

「神は、悩みの地で、わたしに子孫を増やしてくださった。」

53エジプトの国に七年間の大豊作が終わると、54ヨセフが言ったとおり、七年の飢饉が始まった。その飢饉はすべての国々を襲ったが、エジプトには、全国どこにでも食物があった。55やがて、エジプト全国にも飢饉が広がり、民がファラオに食物を叫び求めた。ファラオはすべてのエジプト人に、「ヨセフのもとに行って、ヨセフの言うとおりにせよ」と命じた。56飢饉は世界各地に及んだ。ヨセフはすべての穀倉を開いてエジプト人に穀物を売ったが、エジプトの国の飢饉は激しくなっていた。57また、世界各地の人々も、穀物を買いにエジプトのヨセフのもとにやって来るようになった。世界各地の飢饉も激しくなったからである。

ヨセフの話を読む時、映画のような展開(実際、映画になっていますが)に物語を読んでいるような気持ちになります。主人公ヨセフの運命が二転三転し、凶つたような展開が繰り広げられます。神さまが全てをご計画されているので、聖書を通して振り返って見ると、この様な展開になる為にはこのタイミング以外では無理だったと思わされます。ヨセフの頼みの綱であった給仕役の長がヨセフの願いを忘れてしまったことでの、2年間の牢獄生活。ですが、これ以上ないタイミングでヨセフが用いられました。ヨセフの苦境はヨセフ自身の神さまに対する罪によるものではないのですが、自分が何か主のみ旨に叶わないことをしてしまったかもと不安になったかもしれません。ただ、ヨセフの心には不安はあれど失望は無かったと思うのです。むしろその様な時にこそ、神さまが共にいて下さり、たび重なる苦難に対して、あふれるほどに与えられるみ霊や恵みがヨセフを支えてくれていることを実感出来ていたのではないのでしょうか。

神さまから頂いた、夢の解き明かしの能力は何とも魅力がありますね。不思議な夢を見た時に、この夢は何なのだろうと気になったことを思い出します。創世記の時代では夢は神さまからの啓示のひとつと考えられていたので、解き明かしが出来る者というのは重宝されていたのだと想像出来ます。そして神さまはその能力を最大限に活かせる場面にヨセフを用いられました。それが正にエジプトの王、ファラオの夢の解き明かしです。7年の豊作とその後に起こる7年の飢饉。これを知っているか否かの差はどれ程のことだったのでしょうか。



ファラオはその場でヨセフを宮廷の責任者とし、「印章のついた指輪を自分の指からはずしてヨセフの指にはめ」(42節)とあるように王の全権を与えてしまう程の信頼を得ることになりました。こども驚くべきことですね。それほどまでにヨセフの夢の解き明かしが、不思議な夢を見て不安の中にいたファラオの心を晴らすことが出来たのだと、「ヨセフの言葉に感心した」(37節)の言葉から受け取れます。また、その後続く「このように神の霊が宿っている人はほかにあるだろうか」(38節)のファラオの言葉は信仰を持っている者の言葉です。ファラオはユダヤの神さまを信じている者ではありませんけど、こういう言葉が自然に出るほどに当時は神さまという存在があって当たり前であったのではないのでしょうか。現代の日本で「神さまの力により夢の解き明かしから豊作の7年後に7年間の飢饉が来るのが分かったので、その為の備えとして豊作の7年間に、穀物を蓄えます」などと政府が発表したら、今の感覚ですと耳を疑ってしまいます。また、ヨセフは夢の解き明かしだけでなく、その飢饉を乗り越えるための準備を完璧に整えました。これも主がその仕事をこなす為のみ霊を与えて下さり、共にいて支えて下さったからこそ出来ることですね。

ヨセフの息子たちに付けた名前について、この箇所にはヨセフの本心が語られていると捉えることが出来ます。

「神が、わたしの苦勞と父の家のことをすべて忘れさせてくださった。」(51節)として長男をマナセ(忘れさせる)という名にしました。ヨセフの今までの人生が苦勞(苦難)の多い人生であったこと。また、「兄達に売られた」という事実がそれまで不自由なく育てていた頃の幸せな父の家での記憶を超える程のものであったことを表しており、それを忘れさせて下さったことを感謝していると言えます。また、「神は、悩みの地で、わたしに子孫を増やしてくださった。」(52節)として次男をエフライム(増やす)と名付けました。この時点で王様と並ぶ存在となっていたエジプトを「成功の地」とは呼ばずに「悩みの地」と表現していること。また、二人の名前を故郷の言葉で名付けたヨセフの心は、故郷での辛い思いを忘れさせてもらえた感謝はあれど、それでも故郷の家族への想いをもち続けている複雑な心境を表しているのではないのでしょうか。長い苦難の中、只々(ただただ)神さまにより頼み苦難の中を歩み続けるヨセフ。神さまに支えられ人生の大逆転を繰り返し、エジプトの王と同等の地位にまで登りつめました。他の人から見れば大出世を果たし、大成功をものにしたヨセフですが、それを喜ぶと共に、故郷の家族との幸せな人生を送りたい思いも大きかったように受け取れます。

最後に聖書教育誌にもあるように、この出来事がエジプト及び周辺諸国の多くの人々の命を救いましたが、その反面、ユダヤの民も含む多くの人々がファラオの奴隷となってしまいます。この流れから出エジプト記の出来事へと進んでいきます。ここからユダヤの民の苦難の歩みが始まっていくとも言えます。ただ、ここで忘れてはいけないのは、一見、私たちの目には苦難が多く、最善とは思えない展開であっても、これが神さまがユダヤの民のためにご計画された最善の道であるということです。私たちの人生にも「神さまどうしてですか」と思いたくなる出来事が起こります。たとえ直ぐには納得出来ないことであっても、それでもこれが私たち一人ひとりに神さまがご計画された最善の道であることを信じ、歩んでいきたいですね。

～分かち合い～

- 苦難の中、神さまに祈り、より頼み、支えてもらいつつ乗り越えた経験はありますか。でしょうか。

9月16日(月) 創世記42章1～5節

1ヤコブは、エジプトに穀物があると知って、息子たちに、「どうしてお前たちは顔を見合わせてばかりいるのだ」と言い、更に、2「聞くところでは、エジプトには穀物があるというではないか。エジプトへ下って行って穀物を買ってきなさい。そうすれば、我々は死なずに生き延びることができるではないか」と言った。3そこでヨセフの十人の兄たちは、エジプトから穀物を買うために下って行った。4ヤコブはヨセフの弟ベニヤミンを兄たちに同行させなかった。何か不幸なことが彼の身に起こるといけないと思ったからであった。5イスラエルの息子たちは、他の人々に混じって穀物を買いにしかけた。カナン地方にも飢饉が襲っていたからである。

大雨、日照り、地震、台風等が起こっています。それにより水害、崩壊、土砂崩れ、そして停電、断水等多くの被害が出ています。行方不明者もいます。被災者のため、復旧に働く人びとがいます。捜索のために働く人びとがいます。本当に感謝いたします。神さまも見守ってくれています。

9月17日(火) 創世記42章6～20節前半

6ところで、ヨセフはエジプトの司政者として、国民に穀物を販売する監督をしていた。ヨセフの兄たちは来て、地面にひれ伏し、ヨセフを拝した。7ヨセフは一目で兄たちだと気づいたが、そしらぬ振りをして厳しい口調で、「お前たちは、どこからやって来たのか」と問いかけた。

彼らは答えた。

「食糧を買うために、カナン地方からやって参りました。」

8ヨセフは兄たちだと気づいていたが、兄たちはヨセフとは気づかなかった。9ヨセフは、そのとき、かつて兄たちについて見た夢を思い起こした。

ヨセフは彼らに言った。

「お前たちは回し者だ。この国の手薄な所を探りに来たにちがいない。」

10彼らは答えた。

「いいえ、御主君様。僕どもは食糧を買いに來ただけでございます。11わたしどもは皆、ある男の息子で、正直な人間でございます。僕どもは決して回し者などではありません。」

12しかしヨセフが、「いや、お前たちはこの国の手薄な所を探りに来たにちがいない」と言うのと、13彼らは答えた。

「僕どもは、本当に十二人兄弟で、カナン地方に住むある男の息子たちでございます。末の弟は、今、父のもとにおりますが、もう一人は失いました。」

14すると、ヨセフは言った。

「お前たちは回し者だとわたしが言ったのは、そのことだ。15その点について、お前たちを試すことにする。ファラオの命にかけて言う。いちばん末の弟を、ここに來させよ。それまでは、お前たちをここから出すわけにはいかぬ。16お前たちのうち、だれか一人を行かせて、弟を連れて來い。それまでは、お前たちを監禁し、お前たちの言うことが本当かどうか試す。もしそのとおりでなかったら、ファラオの命にかけて言う。お前たちは間違いなく回し者だ。」

17ヨセフは、こうして彼らを三日間、牢獄に監禁しておいた。

18三日目になって、ヨセフは彼らに言った。

「こうすれば、お前たちの命を助けてやろう。わたしは神を畏れる者だ。19お前たちが本当に正直な人間だというのなら、兄弟のうち一人だけを牢獄に監禁するから、ほかの者は皆、飢えているお前たちの家族のために穀物を持って帰り、20末の弟をここへ連れて來い。」

ヨセフはなつかしさと共に憎しみがわいてきます。兄たちに厳しく接します。人の心に憎しみがなかったら、もっと平和に過ごせるのに……。主よ、憎しみを持つ人の心をどうか和らげて下さい。

## 9月18日(水) 創世記42章20後半～22節

そうして、お前たちの言い分が確かめられたら、殺されはしない。」彼らは同意して、21互いに言った。「ああ、我々は弟のことで罰を受けているのだ。弟が我々に助けを求めたとき、あれほどの苦しみを見ながら、耳を貸そうとしなかった。それで、この苦しみが我々にふりかかった。」22すると、ルベンが答えた。

「あのときわたしは、『あの子に悪いことをするな』と言ったではないか。お前たちは耳を貸そうとしなかった。だから、あの子の血の報いを受けるのだ。」

兄たちはヨセフの事を思い出します。自分が苦しみを受けて初めて相手(ヨセフ)の苦しみがわかります。我々は弟のことで罰を受けているのだ。ヨセフは兄たちのことばを聞いています。きっと憎しみが和らいだと思えます。

## 9月19日(木) 創世記42章29～38節

29一行はカナン地方にいる父ヤコブのところへ帰って来て、自分たちの身に起こったことをすべて報告した。

30「あの国の主君である人が、我々を厳しい口調で問い詰めて、この国を探りに来た回し者にちがいないと言うのです。31もちろん、我々は正直な人間で、決して回し者などではないと答えました。32我々が十二人兄弟で、一人の父の息子であり、一人は失いましたが、末の弟は今、カナンの地方に住む父のもとにいますと言ったところ、33あの国の主君である人が言いました。『では、お前たちが本当に正直な人間かどうかを、こうして確かめることにする。お前たち兄弟のうち、一人だけここに残し、飢えているお前たちの家族のために、穀物を持ち帰るがいい。34ただし、末の弟を必ずここへ連れて来るのだ。そうすれば、お前たちが回し者ではなく、正直な人間であることが分かるから、お前たちに兄弟を返し、自由にこの国に出入りできるようにしてやろう。』」

35それから、彼らが袋を開けてみると、めいめいの袋の中にもそれぞれ自分の銀の包みが入っていた。彼らも父も、銀の包みを見て恐ろしくなった。36父ヤコブは息子たちに言った。

「お前たちは、わたしから次々と子供を奪ってしまった。ヨセフを失い、シメオンも失った。その上ベニヤミンまでも取り上げるのか。みんなわたしを苦しめることばかりだ。」

37ルベンは父に言った。

「もしも、お父さんのところにベニヤミンを連れ帰らないようなことがあれば、わたしの二人の息子を殺してもかまいません。どうか、彼をわたしに任せてください。わたしが、必ずお父さんのところに連れ帰りますから。」

38しかし、ヤコブは言った。

「いや、この子だけは、お前たちと一緒に行かせるわけにはいかぬ。この子の兄は死んでしまい、残っているのは、この子だけではないか。お前たちの旅の途中で、何か不幸なことがこの子の身に起こりでもしたら、お前たちは、この白髪の父を、悲嘆のうちに陰府に下らせることになるのだ。」

兄たちは父を説得します。「弟と一緒にない限り会わぬ、と言うのです」ヤコブは愛する息子を万が一失うことを考えて、苦しみのあまり声を荒げてしまいます。兄たちが言います。命をかけて、必ずお父さんのところに連れ帰ります。兄たちの父を思う気持ちがあらわれています。

## 9月20日（金） 創世記44章1～17節

1ヨセフは執事に命じた。

「あの人たちの袋を、運べるかぎり多くの食糧でいっぱいにし、めいめいの銀をそれぞれの袋の口のところへ入れておけ。2それから、わたしの杯、あの銀の杯を、いちばん年下の者の袋の口に、穀物の代金の銀と一緒に入れておきなさい。」

執事はヨセフが命じたとおりにした。

3次の朝、辺りが明るくなったころ、一行は見送りを受け、ろばと共に出発した。4ところが、町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは執事に命じた。

「すぐに、あの人たちを追いかけ、追いついたら彼らに言いなさい。『どうして、お前たちは悪をもって善に報いるのだ。5あの銀の杯は、わたしの主人が飲むときや占いのときに、お使いになるものではないか。よくもこんな悪いことができたものだ。』」

6執事は彼らに追いつくと、そのとおりに言った。7すると、彼らは言った。

「御主人様、どうしてそのようなことをおっしゃるのですか。僕どもがそんなことをするなどとは、とんでもないことです。8袋の口で見つけた銀でさえ、わたしどもはカナンの地から持ち帰って、御主人様にお返ししたではありませんか。そのわたしどもがどうして、あなたの御主君のお屋敷から銀や金を盗んだりするのでしょうか。9僕どもの中のだれからでも杯が見つければ、その者は死罪に、ほかのわたしどもも皆、御主人様の奴隷になります。」

10すると、執事は言った。

「今度もお前たちが言うとおりにならよいが。だれであっても、杯が見つければ、その者はわたしの奴隷にならねばならない。ほかの者には罪は無い。」

11彼らは急いで自分の袋を地面に降ろし、めいめいで袋を開けた。12執事が年上の者から念入りに調べ始め、いちばん最後に年下の者になったとき、ベニヤミンの袋の中から杯が見つかった。13彼らは衣を引き裂き、めいめい自分のろばに荷を積むと、町へ引き返した。

14ユダと兄弟たちがヨセフの屋敷に入って行くと、ヨセフはまだそこにいた。一同は彼の前で地にひれ伏した。15「お前たちのしたこの仕業は何事か。わたしのような者は占いで当たることを知らないのか」とヨセフが言うと、16ユダが答えた。

「御主君に何と申し開きできましょう。今更どう言えば、わたしどもの身の証しを立てることができましょう。神が僕どもの罪を暴かれたのです。この上は、わたしどもも、杯が見つかった者と共に、御主君の奴隷になります。」

17ヨセフは言った。

「そんなことは全く考えていない。ただ、杯を見つけられた者だけが、わたしの奴隷になればよい。ほかのお前たちは皆、安心して父親のもとへ帰るがよい。」

ヨセフは弟ベニヤミンと一緒にここで暮らしたいと思いました。そこで策略を考えつきました。弟の袋に大切な杯を入れさせたのです。人は自分の思いをとげるため、愚かな行為をしてしまうのですね。

## 9月21日(土) 創世記44章18～34節

18ユダはヨセフの前に進み出て言った。

「ああ、御主君様。何とぞお怒りにならず、僕の申し上げますことに耳を傾けてください。あなたはファラオに等しいお方でいらっしゃるから。

19御主君は僕どもに向かって、『父や兄弟がいるのか』とお尋ねになりましたが、20そのとき、御主君に、『年とった父と、それに父の年寄り子である末の弟がおります。その兄は亡くなり、同じ母の子で残っているのはその子だけですから、父は彼をかわいがっております』と申しあげました。21すると、あなたさまは、『その子をここへ連れて来い。自分の目で確かめることにする』と僕どもにお命じになりました。22わたしどもは、御主君に、『あの子は、父親のもとから離れるわけにはまいりません。あの子が父親のもとを離れば、父は死んでしまいます』と申しあげましたが、23あなたさまは、『その末の弟と一緒に来なければ、再びわたしの顔を見ることは許さぬ』と僕どもにおっしゃいました。24わたしどもは、あなたさまの僕である父のところへ帰り、御主君のお言葉を伝えました。25そして父が、『もう一度行って、我々の食糧を少し買って来い』と申しあげた折にも、26『行くことはできません。もし、末の弟と一緒に参ります。末の弟と一緒にないかぎり、あの方の顔を見ることはできないのです』と答えました。27すると、あなたさまの僕である父は、『お前たちも知っているように、わたしの妻は二人の息子を産んだ。28ところが、そのうちの一人はわたしのところから出て行ったきりだ。きつとかみ裂かれてしまったと思うが、それ以来、会っていない。29それなのに、お前たちはこの子までも、わたしから取り上げようとする。もしも、何か不幸なことがこの子の身に起こりでもしたら、お前たちはこの白髪の父を、苦しめて陰府に下らせることになるのだ』と申しあげました。30今わたしが、この子を一緒に連れずに、あなたさまの僕である父のところへ帰れば、父の魂はこの子の魂と堅く結ばれていますから、31この子がいなことを知って、父は死んでしまうでしょう。そして、僕どもは白髪の父を、悲嘆のうちに陰府に下らせることになるのです。

32実は、この僕が父にこの子の安全を保障して、『もしも、この子をあなたのもとに連れて帰らないようなことがあれば、わたしが父に対して生涯その罪を負い続けます』と言ったのです。33何とぞ、この子の代わりに、この僕を御主君の奴隷としてここに残し、この子はほかの兄弟たちと一緒に帰らせてください。34この子を一緒に連れずに、どうしてわたしは父のもとへ帰ることができましょう。父に襲いかかる苦悶を見るに忍びません。』

「杯を見つけられた者だけが、私の奴隷になればよい。他の者は父親のもとへ帰るがよい」ユダが申し出ます。父ヤコブは何にもまして弟ベニヤミンを愛しています。私たちはそんな父を説得して弟を連れてきました。命をかけて弟を守り、連れて帰る事を約束しました。弟が帰らなければ、父は死んでしまいます。弟なくしてどうして帰れましょう。どうか、弟を帰して下さい。私を代わりに奴隷にしてください。お願いします。父を思う兄たちの強い絆が伝わってきます。その思い、ヨセフの心にも届いたことでしょう。

## 第25課 打ち明けるヨセフ

聖書箇所：創世記45章1～8節

主題聖句：「わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。（8節）」

1ヨセフは、そばで仕えている者の前で、もはや平静を装っていることができなくなり、「みんな、ここから出て行ってくれ」と叫んだ。だれもそばにいなくなってから、ヨセフは兄弟たちに自分の身を明かした。2ヨセフは、声をあげて泣いたので、エジプト人はそれを聞き、ファラオの宮廷にも伝わった。

3ヨセフは、兄弟たちに言った。

「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」

兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり、答えることができなかった。

4ヨセフは兄弟たちに言った。

「どうか、もっと近寄ってください。」

兄弟たちがそばへ近づくと、ヨセフはまた言った。

「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。5しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。6この二年の間、世界中に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もないでしょう。7神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。8わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです。」

本日の聖書の箇所は約10数年ぶりに思いがけず兄たちと再会したヨセフのお話しです。幼きころ、兄たちによって愛する父や家族と引き離され、奴隷として売られ様々な苦境に立たされた人生を歩んできたヨセフです。心に受けた傷は何年経っても完全には処理されず、時々思い出しては辛い思いや憎しみで心が支配されたこともあったことでしょうか。いったいどんな思いで目の前にいる兄たちと向き合っているのでしょうか。権威ある立場のヨセフは兄たちに復讐するチャンスもありました。しかし、彼はそれができないのです。彼を抑えているものがあるのです。

世界的な激しい飢饉はカナン地の地にも起きました。エジプトには食料があると聞き、藁をもつかむ思いで食料の調達のためエジプトにやってきたヨセフの兄たち10人は、目の前にいるエジプトの宰相（総理大臣）が、自分たちがかつて殺そうとし奴隷として売った弟とは知らず、彼の前にひれ伏し顔を地にこすりつけて拝み、食料を分けてほしいと嘆願します。幼いヨセフが最初に見た夢（創世記37：7）がここで成就するのです。

すぐに兄たちだと気づいたヨセフは難題を負わせながら様子をうかがっていましたが、彼らがかつて自分にした残酷な仕打ちを悔んでいることや、最愛の子を失った悲しみから今も解放されていない父の様子を知ります。そして、兄ユダが末の弟ベニヤミンの身代わりにエジプトの奴隷になるとまで言うのです。弟のために必死にとりなす姿に、頑なだったヨセフの心の壁が崩れ始めます。すべてを益に変えてくださる神のみわざが働き、和解へと導かれていきます。

ヨセフは人払いをしたあと、別室の部下やしもべに聞こえることもはばからず、感情をさらけ出して泣き、ついに自分から和解の心で兄たちに歩み寄るのです。それまでは通訳を介してエジプト語で会話をしていたヨセフがヘブル語で話しかけます。

「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」

驚きのあまり何も答えることのできない兄弟たちにヨセフは続けます。

「どうか、もっと近寄ってください。」

わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。」

ヨセフはここで神のみわざのことを語ります。自分の身に起こったことは、確かに自分を中心にして考えれば不幸でしかありません。しかし神のみこころと摂理(注1) という点から見ると、すべての出来事は大きいなる神のご計画だったことを知ることができます。「お兄さんたちは私をエジプトに売り飛ばしましたが私は頑張って宰相にまで登りつめましたよ」などと上から目線で言うてはいません。兄たちのせいでも自分の努力によってでもなく神のみこころと摂理によるものだと言っているのです。

兄たちの悪い行為が転じてよい結果を生んだということではありません。

赦せない思いに捕らわれて苦しんでいましたが、赦せるように神がしてくださったという恵みの発見がここに 있습니다。そして神のみこころと摂理について堂々と兄弟に語っているヨセフがいるのです。また長い間、自分たちのした行為を悔やみ・悩んでいた兄たちが、神が遣わしたヨセフによって悔い改めと導かれるのです。大きいなる救いの出来事なのです。

幼き日に見た夢は兄たちを支配するものではなく、和解の約束として与えられた希望だったのです。すべては神のご計画の中にあって生かされているということをこの物語は教えています。本日の聖書箇所には神を具体的な形で登場させていません。神を直接に表現していなくても、このイスラエルの家族を通して働かれる神のお力は歴然としています。まさに「ヨセフ物語」は「神の摂理物語」なのです。

(注1) 摂理とは・・・すべてのものを想像された神が、それらのものを完全に保持・統治し主権をもって最善へと導くために働いておられるということ。

～分かち合い～

- 人を赦すということは私たちにとっては、とても大きな課題ですが、主イエスは7の70倍赦すように教えておられます。どのようにしたらそんなに寛大な心が持てるのでしょうか。
- 次週の学びは創世記の最終回です。50章におよぶ創世記がヨセフ物語で終わること、どのような意味があると思いますか。

9月23日（月） 創世記45章9～13節

9 急いで父上のもとへ帰って、伝えてください。『息子のヨセフがこう言っています。神が、わたしを全エジプトの主としてくださいました。ためらわずに、わたしのところへおいでください。10そして、ゴシェンの地域に住んでください。そうすればあなたも、息子も孫も、羊や牛の群れも、そのほかすべてのものも、わたしの近くで暮らすことができます。11そこでのお世話は、わたしが引き受けいたします。まだ五年間は飢饉が続くのですから、父上も家族も、そのほかすべてのものも、困ることのないようになさなければいけません。』12さあ、お兄さんたちも、弟のベニヤミンも、自分の目で見てください。ほかならぬわたしがあなたたちに言っているのです。13エジプトでわたしが受けているすべての栄誉と、あなたたちが見たすべてのことを父上に話してください。そして、急いで父上をここへ連れて来てください。』

ヨセフが様々な苦難を乗り越えてエジプトで生きて来た意味とその使命は、ヤコブの家族が救われるためでした。その大いなる神のご計画と恵みのわざを、急いで父に知らせよう語っています。

9月24日（火） 創世記45章25～28節

25兄弟たちはエジプトからカナン地方へ上って行き、父ヤコブのもとへ帰ると、26直ちに報告した。

「ヨセフがまだ生きています。しかも、エジプト全国を治める者になっています。」

父は気が遠くなった。彼らの言うことが信じられなかったのである。27彼らはヨセフが話したとおりのことを、残らず父に語り、ヨセフが父を乗せるために遣わした馬車を見せた。父ヤコブは元気を取り戻した。28イスラエルは言った。

「よかった。息子ヨセフがまだ生きていたとは。わたしは行こう。死ぬ前に、どうしても会いたい。」

ヨセフの死を嘆き悲しむ27節までは「ヤコブ」ですが、28節では「イスラエル」という神が与えた新しい名になっています。神の支配の中で自分は生かされていることを思い出したので「イスラエル」なのです。私たちも同じように神から与えられた自分の名が天のいのちの書に記されています。感謝します。

9月25日（水） 創世記46章1～4節

1イスラエルは、一家を挙げて旅立った。そして、ベエル・シェバに着くと、父イサクの神にいけにえをささげた。2その夜、幻の中で神がイスラエルに、「ヤコブ、ヤコブ」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、3神は言われた。

「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトへ下ることを恐れてはならない。わたしはあなたをそこで大いなる国民にする。4わたしがあなたと共にエジプトへ下り、わたしがあなたを必ず連れ戻す。ヨセフがあなたのまぶたを閉じてくれるであろう。」

神は「ヤコブ、ヤコブ」と二度も呼びかけられ、アブラハムとイサクに与えられた約束をヤコブがエジプトに下っても受け継ぐことになると語られます。そしてヤコブ個人への慰めとして、ヨセフがまぶたを閉じてくれる、安らかに愛する息子のもとで死を迎えられることを約束してくださいました。



## 9月26日（木） 創世記46章28～30節

28ヤコブは、ヨセフをゴシェンに連れて来るために、ユダを一足先にヨセフのところへ遣わした。そして一行はゴシェンの地に到着した。29ヨセフは車を用意させると、父イスラエルに会いにゴシェンへやって来た。ヨセフは父を見るやいなや、父の首に抱きつき、その首にすがったまま、しばらく泣き続けた。30イスラエルはヨセフに言った。

「わたしはもう死んでもよい。お前がまだ生きていて、お前の顔を見ることができたのだから。」

ヨセフを失ったとき悲嘆の涙に暮れてもう死んでしまいたいと思ったヤコブ。エジプトに発つ前には「死ぬ前にどうしても会いたい」と言い、そしてついに再会を迎え「もう死んでもよい」と言っています。「死」というキーワードでヤコブの心の内を究極に表現していますね。

## 9月27日（金） 創世記48章21節

21イスラエルはヨセフに言った。

「間もなく、わたしは死ぬ。だが、神がお前たちと共に行ってください、きっとお前たちを先祖の国に導き帰らせてくださる。22わたしは、お前に兄弟たちよりも多く、わたしが剣と弓をもってアモリ人の手から取った一つの分け前（シェケム）を与えることにする。」

ヤコブはかつて自分が住んでいたシェケムという地をヨセフに与えると約束しました。ヨハネによる福音書に「ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリヤの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。」（4:5-6）という箇所があります。ひとりの女がイエスこそメシアであることを告白し、永遠の命に至る生ける神の水を与えられたその場所は、ヤコブがヨセフに与えた地だったのです。

## 9月28日（土） 創世記49章29～33節

29ヤコブは息子たちに命じた。

「間もなくわたしは、先祖の列に加えられる。わたしをヘト人エフロンの畑にある洞穴に、先祖たちと共に葬ってほしい。30それはカナン地方のmamreの前のマクペラの畑にある洞穴で、アブラハムがヘト人エフロンから買い取り、墓地として所有するようになった。31そこに、アブラハムと妻サラが葬られている。そこに、イサクと妻リベカも葬られている。そこに、わたしもレアを葬った。32あの畑とあそこにある洞穴は、ヘトの人たちから買い取ったものだ。」

33ヤコブは、息子たちに命じ終えると、寝床の上に足をそろえ、息を引き取り、先祖の列に加えられた。

波瀾に富んだ歩みでしたが人生を全うした充実感に満たされ、子孫の将来に関する確信も得ていて、地上での命が終わっても神の祝福の道へと続く希望もある。全能の神への信頼と共にある幸いな死、祝された死とすることができます。

## 第26課 託されるヨセフ

聖書箇所：創世記50章15～26節

主題聖句：あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。(20節)

15ヨセフの兄弟たちは、父が死んでしまったので、ヨセフがことによると自分たちをまだ恨み、昔ヨセフにしたすべての悪に仕返しをするのではないかと思った。16そこで、人を介してヨセフに言った。

「お父さんは亡くなる前に、こう言っていました。17『お前たちはヨセフにこう言いなさい。確かに、兄たちはお前に悪いことをしたが、どうか兄たちの咎と罪を赦してやってほしい。』お願いします。どうか、あなたの父の神に仕える僕たちの咎を赦してください。」

これを聞いて、ヨセフは涙を流した。18やがて、兄たち自身もやって来て、ヨセフの前にひれ伏して、「このとおり、私どもはあなたの僕です」と言うと、19ヨセフは兄たちに言った。

「恐れることはありません。わたしが神に代わることができましようか。20あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。21どうか恐れなくてください。このわたしが、あなたたちとあなたたちの子供を養いましょう。」

ヨセフはこのように、兄たちを慰め、優しく語りかけた。

22ヨセフは父の家族と共にエジプトに住み、百十歳まで生き、23エフライムの三代の子孫を見ることができた。マナセの息子マキルの子供たちも生まれると、ヨセフの膝に抱かれた。

24ヨセフは兄弟たちに言った。

「わたしは間もなく死にます。しかし、神は必ずあなたたちを顧みてくださり、この国からアブラハム、イサク、ヤコブに誓われた土地に導き上げてくださいます。」

25それから、ヨセフはイスラエルの息子たちにこう言って誓わせた。

「神は、必ずあなたたちを顧みてくださいます。そのときには、わたしの骨をここから携えて上げてください。」

26ヨセフはこうして、百十歳で死んだ。人々はエジプトで彼のなきがらに薬を塗り、防腐処置をして、ひつぎに納めた。

今週の聖書教育誌の週題は「託されたヨセフ」です。兄弟たちはヨセフとの和解をした後、カナンに戻りヨセフがまだ生きていること、エジプト全国を治める者となっていることを報告しました。

創世記45:28 イスラエルは言った。「よかった。息子ヨセフがまだ生きていたとは。わたしは行こう。死ぬ前に、どうしても会いたい。」

こうして父ヤコブをエジプトへ迎えるためにファラオが差し向けた馬車で一家を挙げてヘbronから旅立ちます。途中のベエル・シェバ(46:1)で約束の地を離れることに神の御心を求めてヤコブは礼拝しました。神はエジプトに下ることをやめよとは言われずに共にあると言われたのです。

創世記46:3～4 神は言われた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトへ下ることを恐れてはならない。わたしはあなたをそこで大いなる国民にする。わたしがあなたと共にエジプトへ下り、わたしがあなたを必ず連れ戻す。ヨセフがあなたのまぶたを閉じてくれるであろう。」

エジプトの地に一緒に下ってくださる神は、神の民として整えられた神の時にカナンの地に導いてくださる約束の主であることを信頼する民へと変えてくださいました。年老いたヤコブはエジプトの地で召されたとしても、彼の子孫たちは必ずカナンの地に戻ってこられることを約束してくださったのです。

こうして、ヤコブはゴシェンの地でヨセフとの感動の再会(46:29)を果たします。ヤコブはエジプトで17年間生きて、彼の生涯は147年でした。ヤコブは死期が近いと悟ったときに息子ヨセフにエジプトではなく先祖が眠る墓に葬るように願いました。ヤコブがヨセフには二人の息子、マナセとエフライムがいることを知ると「二人の息子をわたしの子どもとしたい(48:5)」としてアブラハム、イサクから受け継いだ祝福(長子の権利)を与えました。これによりヨセフの子孫は一つの部族ではなく二つの部族となりました。エジプト生まれの二人でしたがこうしてヨセフの二人の息子もイスラエルの十二部族として約束の民を受け継いでいくことができたのです。

ヤコブが召されたとき、ヨセフはファラオの許しを得て荘厳な葬儀を行いカナンのアブラハム、イサクとその妻たちが葬られているマクペラの洞穴に葬りました。

ヨセフの父の立場とはいえカナンの地に居留する一部族の長に対するヨセフのエジプトでの権勢を示す荘厳な葬儀に兄たちは恐れしました。「**私どもはあなたの僕です**」とヨセフの前にひれ伏します。どんな仕打ちもできる絶対的な権力をもっていたからです。けれどもヨセフはエジプト人のように装っていましたが真の神、神が共におられるとの信仰と愛に満たされていました。

**創世記50:19~20** ヨセフは兄たちに言った。「恐れることはありません。わたしが神に代わることができましようか。あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。」

ここにヨセフの人生に神の主権が働いておられることがわかります。ヨセフは驚くべき神の真理を発見したのです。それは、人が悪意をもってなしたことも神は良いことに変えることがお出来になるということです。

ヨセフは兄弟の妬みの結果、エジプトに奴隷として売られましたが、神の不思議な導きによりエジプトのファラオに次ぐ宰相にまでなり、飢饉に襲われたカナンのイスラエルの一族をエジプトへと移住させました。ヨセフの息子、次男エフライムにイスラエル(ヤコブ)のアブラハム、イサク、ヤコブと受け継がれた長子の権利は受け継がれ、やがてイスラエルの民はエジプトの地でひとつの民として形成されていったのです。つまり、ヨセフによって神の民の形成の機会が与えられたのです。

**創世記50:24** ヨセフは兄弟たちに言った。「わたしは間もなく死にます。しかし、神は必ずあなたたちを顧みてくださり、この国からアブラハム、イサク、ヤコブに誓われた土地に導き上げてくださいます。」

ヨセフは110歳までエジプトの地で生きました。兄弟たちに遺したこの言葉にヨセフの揺るぎの無い信仰が彼の生涯を恵み溢れるものに見て取れます。み言葉の約束は生き続け400年の後にモーセによって遺骨は携えられて(出エジプト13:19)、エフライムの嗣業の地であるシケムの地に埋葬(ヨシュア24:32)されたのです。こうしてヨセフはイスラエルの民が神の民としてひとつとなるという託された働きを神の導きのもとに見事に成し遂げたのです。

～分かち合い～

- 先達の信仰を受け継いだ私たちに託されている働きをわかちあいましょう。

## 今週の聖書日課

### 9月30日(月) 創世記15章13～14節

13主はアブラムに言われた。

「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、四百年の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。14しかしわたしは、彼らが奴隷として仕えるその国民を裁く。その後、彼らは多くの財産を携えて脱出するであろう。」

アブラハムは子どもがおらず75才を過ぎていましたが、主にあなたの子孫は星の数ほど増えると言われ、その言葉を信じて義と認められました。その子孫は最後には多くの財産を携えて脱出するが、その前に400年間奴隷として苦しむとも…。複雑な心境になる告知にも関わらず信じ従ったアブラハムの信仰に想いを馳せます。

### 10月1日(火) 出エジプト記13章19節

モーセはヨセフの骨を携えていた。ヨセフが、「神は必ずあなたたちを顧みられる。そのとき、わたしの骨をここから一緒に携えて上るように」と言って、イスラエルの子らに固く誓わせたからである。

「・・・、そのときには、わたしの骨をここから携え上ってください。」(創世記50:25b)とのヨセフの遺言と預言に従って、薬を塗って防腐処置をしたヨセフの亡骸(ミイラ)を携えて出発しました。このこと一つとっても周到な準備が必要でしたでしょう。事の大小あれど主に示されたことをする時の準備の大切さを学びます。

### 10月2日(水) ヨシュア記24章32節

イスラエルの人々がエジプトから携えてきたヨセフの骨は、その昔、ヤコブが百ヶシタで、シケムの父ハモルの息子たちから買い取ったシケムの野の一画に埋葬された。それは、ヨセフの子孫の嗣業の土地となった。

遺言と預言はお父さんのヤコブが買い取ってあったシケムの野の一画にヨセフが埋葬されることで成就されました。そして、その地は神さまから与えられた地(嗣業の地)として、ヨセフの子孫が受け継ぐものとなりました。私たちが神さまから与えられた教会を初め、良きものを大切に引き継いでいきたいです。

### 10月3日(木) 詩編139編13～18節

13あなたは、わたしの内臓を造り  
母の胎内にわたしを組み立ててくださった。  
14わたしはあなたに感謝をささげる。  
わたしは恐ろしい力によって  
驚くべきものに造り上げられている。  
御業がどんなに驚くべきものか  
わたしの魂はよく知っている。  
15秘められたところでわたしは造られ  
深い地の底で織りなされた。  
あなたには、わたしの骨も隠されてはいない。

16胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。  
わたしの日々はあなたの書にすべて記されている  
まだその一日も造られないうちから。  
17あなたの御計らいは  
わたしにとっていかに貴いことか。  
神よ、いかにそれは数多いことか。  
18数えようとしても、砂の粒より多く  
その果てを極めたと思っても  
わたしはなお、あなたの中にいる。

母の体内に生まれる前から覚えてくださり、ゼロから私たちを組み立ててくださった神さま。私たち一人一人の身体も心も全てをご存知の神さま、あなたの御計らいは数多過ぎて数えきることには出来ず、端を極めたと思ってもあなたの中にいます。詩人の信仰告白に感謝してアーメンです。

## 10月4日（金） ガラテヤの信徒への手紙 | 章 | 3～| 7 節

13あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました。14また、先祖からの伝承を守るのに人一倍熱心で、同胞の間では同じ年ごろの多くの者よりもユダヤ教に徹しようとしていました。15しかし、わたしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくださった神が、御心のままに、16御子をわたしに示して、その福音を異邦人に告知らせるようにされたとき、わたしは、すぐ血肉に相談するようなことはせず、17また、エルサレムに上って、わたしより先に使徒として召された人たちのもとに行くこともせず、アラビアに退いて、そこから再びダマスコに戻ったのでした。

徹底的に神の教会を迫害していたパウロが、人によらずイエス・キリストの揭示によって福音を知らされ語る者とされました。(誰よりも)福音宣教に複雑な立場でしたが、パウロはこの召命を血肉や先輩に相談せずに、3年後にエルサレムに上るまで表立って行動せずに準備されました。主との深い関係が示されます。

## 10月5日（土） テモテへの手紙 | 4章 | 1～| 3 節

11これらのことを命じ、教えなさい。12あなたは、年が若いということで、だれからも軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、行動、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となりなさい。13わたしが行くときまで、聖書の朗読と勧めと教えに専念しなさい。

学生時代に救われた私たちは、このみ言葉をヒソヒソと分かち合い、身の正される思いを感じました。そして教会学校の教師や毎月喫茶店伝道などをさせていただき主は実を見せてくださいました。楽しく有難い思い出と共に、老若男女分け隔て無く用いてくださる主に改めて感謝いたします。

## 第25課 打ち明けるヨセフ

聖書箇所：創世記45章1～8節

主題聖句：わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。（8節）

1ヨセフは、そばで仕えている者の前で、もはや平静を装っていることができなくなり、「みんな、ここから出て行ってくれ」と叫んだ。だれもそばにいなくなってから、ヨセフは兄弟たちに自分の身を明かした。2ヨセフは、声をあげて泣いたので、エジプト人はそれを聞き、ファラオの宮廷にも伝わった。

3ヨセフは、兄弟たちに言った。

「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」

兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり、答えることができなかった。

4ヨセフは兄弟たちに言った。

「どうか、もっと近寄ってください。」

兄弟たちがそばへ近づくと、ヨセフはまた言った。

「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。5しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。6この二年の間、世界中に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もないでしょう。7神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。8わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです。」

今週の聖書教育誌の週題は「打ち明けるヨセフ」です。ファラオの夢を解き明かしたとおり、エジプトには7年の大豊作の後に飢饉が世界各地に及びました。(41:56) ファラオにより見出されたヨセフはエジプトの宰相となり、大豊作の7年間に穀物を蓄えて次に襲ってくる飢饉に備えました。果たして、飢饉が襲い、エジプトやイスラエル(ヤコブ)一族の居留するカナンも例外ではありませんでした。イスラエル(ヤコブ)はエジプトには穀物の蓄えがあると知り、末の息子ベニヤミンを残して息子たちにエジプトへ行くように命じました。エジプトに渡り、司政者として穀物販売の監督であったヨセフの元を訪ねます。ヨセフは一目見て兄たちと気づき(42:7)、兄たちに見た夢(37:7)を思い起こしましたが、素知らぬふりをして回し者との嫌疑をかけます。それはヨセフの弟ベニヤミンの姿が無かったからでしょう。ヨセフは彼らを三日間牢獄に監禁し、シメオン(42:24)をひとり牢に残して解放し、穀物を渡してカナンへの帰還を赦しました。この思いもよらない出来事で兄たちは13年前に弟ヨセフに犯した罪を思い起こし悔い改めることとなりました。それを聴いてヨセフはひとり泣きました。(42:24)

飢饉はさらにひどくなり穀物を食べ尽くすと、イスラエル(ヤコブ)は、もう一度エジプトに行くように息子たちに言いました。息子たちのリーダー格となったユダは父の心配と恐れを知りつつも末のベニヤミンを連れてくるのがエジプトの司政者ヨセフの条件でしたので、責任は自分が負う(43:9)と誓って父を説得します。エジプトに下り、ヨセフの前にベニヤミンも連れてくると自宅に招かれ、盛大な食事の席に招かれます。そこでヨセフは懐かしい弟を前にして、部屋を出てひとり泣きました。(43:30)

一行がカナンへ戻るときに、ヨセフは執事に命じてベニヤミンの荷物にヨセフの銀の杯を忍ばせませす。(44:2)一行が出発したのを見届けると、すぐに追手を出して銀の杯を取り戻すと「**悪をもって善に報いた(44:4)**」と言ってベニヤミンをエジプトに残しヨセフの奴隷と断ると断ったのです。(44:17) 兄たちにはまったく身に覚えのない理不尽な扱ひでしたが、父ヤコブに誓ったユダはなんとしてもベニヤミンを残すわけにはいかないと必死に訴えます。そして自分が身代わりに奴隷となると申し出てヨセフの赦しを乞ひ願ひ出たのです。(44:33)

兄たちの悔い改める姿を見て、ユダの真実な訴えを聞いて彼らが心からヨセフに犯した罪を悔い改めている事、心から父イスラエル(ヤコブ)を愛している事、そして兄弟が互いに愛し合っていることを目の当たりにして、ついにヨセフは自分の身を明かす時が来たと感じ平静さを保てず声をあげて泣きました。「45:3わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」と故郷の言葉、ヘブライ語で打ち明けたのです。ここに兄弟たちとの和解が実現したのです。

45:5 わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。

ヨセフは自身の身に起こったすべての出来事は神がイスラエルの民を救うために遣わされたと感じるのである。

聖書の時代でも私たちの現代でも人生における出来事は、まったく意思や意味の脈絡なく過ぎていくようにも思われます。何の理由もなく、善も悪も意識することなく偶然が重なり時を重ねて正義などは見出すいとまもなく、混乱と悩みがあり、不正が正されることなく時が続いていく不実さに襲われるような世界に見えます。これが私たちの人生だと嘆き諦めて絶望してしまう弱さをどなたも意識されたことがあるでしょう。しかし、これは人生のすべてではないことをヨセフ物語から知らされます。

ヨセフの苦難の始まりは17歳の夢の説き明かしの賜物に傲慢になっていたことなのでしょう。しかし、兄たちの妬みによる悪により苦難の13年の月日を数えたヨセフは神が共におられる実体験を通して変えられたのです。兄たちの悪の行為に神が働き、行為の結果は不実とはならず神の目に叶う善に変えてくださる事実を目にしたヨセフは自身に起きた出来事を理解し兄弟に打ち明けて和解することができたのです。ヨセフは逆境や苦難のなかで神の励ましと神の訓練があり、厳しい現実のなかにあってもなお神に頼る人生を選び取りました。先の見えない困惑の中にあっても信じて歩み神の助けを待ち望む人へと変えられていったのです。そのヨセフに神の主権が彼の人生のなかに満たされたのです。イスラエル(ヤコブ)の家族は真の和解ができたことで神の家族、神の民として新たな歩みをエジプト・ゴシェンの地から始めることが出来ました。

私たちの人生にも神の励ましと訓練は同じくあることなのでしょう。人生のなかで起きる様々な出来事に神のご意思があると信頼して受け入れたときに神の豊かな祝福が必ず与えられると信じています。

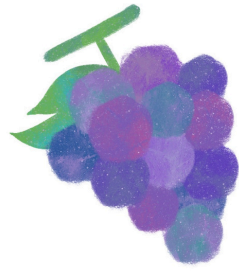
私たちの常盤台教会も、互いに交わり、愛し、打ち明ける「相互牧会」を目的とした共同体・神の家族の再構築を教会のミッションとして歩もうとしています。

ヨハネ13:35 「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

神は私たちに先立って歩む道を備えてくださいます。その旅路の過程では苦難や悲劇があるとしてもヨセフと同じように私たちは神のご意思によって「**福音を証しするため遣わされた者**」なのです。人生の旅路の途中で挫けそうになるときもありますが、私たちには共に祈る信仰の友がいます。その背後に神が共におられます。「45:8 わたしをここへ遣わしたのは神です。」とのみ言葉に立って、共に主なる神を信頼し歩む人生を進んでまいりましょう。

～分かち合い～

- あなたが神の弟子として遣わされたいと願うことがありますか



2024.9 成人科